

# 新規尿酸排泄促進薬（ドチヌラド）の使用経験

大山 博司<sup>1)</sup>、大山 恵子<sup>2)</sup>、諸見里 仁<sup>1)</sup>、  
田淵 大貴<sup>3)</sup>、藤森 新<sup>1)</sup>

1) 両国東口クリニック

2) つばさクリニック

3) 筑波大学医学部医療系膠原病リウマチアレルギー内科

# 日本痛風・尿酸核酸学会 COI 開示

大山博司

演題発表に関連し、開示すべきCOI 関係にある  
企業などはありません。

## 【目的】

2020年5月から臨床現場で使用されるようになった、選択的尿酸再吸収阻害薬ドチヌラドの臨床効果を検証する。

## 【対象】

2021年1月から9月までに尿酸降下薬として新規にドチヌラドが投与された痛風・高尿酸血症患者の中で、血清尿酸値6mg/dL以下を達成できている患者108例（新規投与例）

同期間にベンズブロマロンからドチヌラドに変更された117例（変更例）

## 【方法】

新規投与例ではドチヌラド0.5mgで投与開始後、投与量を漸増して治療目標の血清尿酸値6mg/dL以下が達成できた薬用量を求めた。

変更例については、原則ベンズブロマロン12.5mg、25mg、50mg、75mg、100mgを、それぞれドチヌラド0.5mg、1mg、2mg、3mg、4mgに変更して、変更前後の血清尿酸値の変化を比較した。

# 表1.ドチヌラド単独で血清尿酸値6mg/dL以下が達成できている108例の患者背景

---

性(男/女)	108/0
年齢(歳)	46.7±9.9
体重(kg)	75.9±13.4
疾患	痛風107例、無症候性高尿酸血症1例
合併症(薬物治療中)	高血圧24例、脂質異常症11例、糖尿病3例
病型	排泄低下型106例、正常型1例、混合型1例
血清尿酸値(mg/dL)	8.4±1.2(6.3~11.9)
eGFR(mL/min/1.73m <sup>2</sup> )	76.3±13.8(47~114)
CKD(人)	10

---

表2.血清尿酸値6mg/dL以下が達成されたドチヌラドの投与量と血清尿酸値

投与量	患者数 (人)	体重 (kg)	投与前 血清尿酸値 (mg/dL)	達成時 血清尿酸値 (mg/dL)
0.5mg	44 (40.7%)	70.4±9.0 (56.5~94.3)	7.7±0.7 (6.5~9.4)	5.4±0.5 (4.1~6.0)
1mg	40 (37.0%)	78.2±16.6* (54.6~152.0)	8.4±0.9** (6.3~10.4)	5.3±0.6 (3.8~6.0)
2mg	17 (15.7%)	79.8±9.2** (66.2~93.1)	9.2±0.9** (7.7~10.8)	5.0±0.8 (3.4~6.0)
3mg	6 (5.6%)	89.4±10.5** (77.7~100.0)	11.0±0.8** (9.9~11.9)	5.2±0.6 (4.3~5.8)
4mg	1 (0.9%)	81.8	11.0	5.0
全体 1.1±0.7mg	108 (100%)	75.9±13.4 (56.5~152.0)	8.4±1.2 (6.3~11.9)	5.3±0.6 (3.4~6.0)

\*P<0.05、\*\*P<0.01：投与量0.5mgに対して（多重比較検定、Tukey Kramer法）

# 表3.ドチヌラド投与量別の血清尿酸値の低下量と痛風発作

投与量	患者数 (人)	低下量 (mg/dL)	低下率 (%)	コルヒチン カバー(人)	痛風発作 (人)	コルヒチン カバー 無で発作(人)	コルヒチン カバー 有で発作(人)
0.5mg	44	2.3±0.6	29.7±6.7	14 (31.8%)	9 (20.5%)	5	4
1mg	40	3.1±0.9	36.6±8.5	15 (37.5%)	10 (25%)	9	1
2mg	17	4.2±1.2	45.5±10.	6 (35.3%)	4 (23.5%)	2	2
3mg	6	5.9±0.7	53.2±5.0	6 (100%)	0 (0%)	0	0
4mg	1	6.0	54.6	1 (100%)	1 (100%)	0	1
全体	108	3.1±1.3	36.3±10.6	42 (38.9%)	24 (22.2%)	16 (24.2%)	8 (19.0%)

痛風発作：コルヒチンカバーの有無で有意差なし (χ<sup>2</sup>検定)

表4.ベンズブロマロンをドチヌラドに変更した117例の患者背景

---

性(男/女)	117/0
年齢(歳)	53.4±12.7
疾患	痛風116、無症候性高尿酸血症1
合併症(薬物治療中)	高血圧35、脂質異常症24、糖尿病9
病型	排泄低下型117
通院年数(年)	6.6±5.0
血清尿酸値(mg/dL)	5.7±1.2
eGFR(mL/min/1.73m <sup>2</sup> )	60.7±16.1
CKD(人)	69
ベンズブロマロン投与量	12.5mg10例、25mg40例、50mg52例、 75mg8例、100mg7例

---

表5.ベンズブロマロンをドチヌラドに変更した血清尿酸値の変化

変更後の ドチヌラドの投与量	例数 (人)	ベンズブロマロン 投与時の血清尿酸値 (mg/dL)	ドチヌラドに変更後の 血清尿酸値 (mg/dL)
0.5mg	10 (8.5%)	5.7±0.7 (5.0~6.8)	5.0±0.6* (4.2~6.1)
1mg	38 (32.5%)	5.5±0.9 (4.1~7.6)	5.3±0.8 (3.5~6.8)
2mg	54 (46.2%)	5.9±1.4 (4.0~13.1)	5.6±1.1 (4.1~8.8)
3mg	8 (6.8%)	5.9±1.0 (4.7~7.3)	4.8±1.2* (3.1~6.4)
4mg	7 (6.0%)	5.5±1.3 (4.0~7.6)	6.1±1.8 (4.2~8.6)
全体	117 (100%)	5.7±1.2 (4.0~13.1)	5.4±1.0** (3.1~8.8)

原則ベンズブロマロン12.5mg、25mg、50mg、75mg、100mgをそれぞれドチヌラド0.5mg、1mg、2mg、3mg、4mgに変更

\*p<0.05,\*\*P<0.01 : ベンズブロマロン対ドチヌラド (Man-Whitney u検定)



表6. ベンズブプロマロンをドチヌラドに変更した血清尿酸値の変化（腎機能別）

変更後の ドチヌラドの投与量	eGFR $\geq$ 60mL/min/1.73 <sup>2</sup>			eGFR < 60mL/min/1.73 <sup>2</sup>		
	例数 (人)	変更前の 血清尿酸値 (mg/dL)	変更後の 血清尿酸値 (mg/dL)	例数 (人)	変更前の 血清尿酸値 (mg/dL)	変更後の 血清尿酸値 (mg/dL)
0.5mg	6 (12.5%)	5.8 $\pm$ 0.8 (5.0 ~ 6.8)	5.0 $\pm$ 0.4* (4.3 ~ 5.4)	4 (5.8%)	5.5 $\pm$ 0.5 (5.0 ~ 6.8)	5.2 $\pm$ 0.8 (4.2 ~ 6.1)
1mg	19 (39.6%)	5.2 $\pm$ 0.8 (4.1 ~ 6.9)	5.4 $\pm$ 0.9 (3.5 ~ 6.8)	19 (27.5%)	5.9 $\pm$ 0.8 (4.1 ~ 7.6)	5.3 $\pm$ 0.7* (3.9 ~ 6.3)
2mg	17 (35.4%)	5.4 $\pm$ 1.1 (4.0 ~ 7.2)	5.2 $\pm$ 0.8 (4.2 ~ 6.9)	37 (53.6%)	6.1 $\pm$ 1.5 (4.1 ~ 13.1)	5.7 $\pm$ 1.2 (4.1 ~ 8.1)
3mg	3 (6.3%)	6.4 $\pm$ 1.2 (5.0 ~ 7.3)	4.5 $\pm$ 1.1 (3.3 ~ 5.3)	5 (7.2%)	5.7 $\pm$ 1.0 (4.7 ~ 6.9)	4.9 $\pm$ 1.4* (3.1 ~ 6.4)
4mg	3 (6.3%)	6.2 $\pm$ 2.0 (4.0 ~ 7.6)	6.3 $\pm$ 2.1 (4.4 ~ 8.6)	4 (5.8%)	4.9 $\pm$ 0.3 (4.6 ~ 5.4)	5.9 $\pm$ 1.7 (4.2 ~ 8.3)
全体	48 (100%)	5.5 $\pm$ 1.0 (4.0 ~ 7.6)	5.3 $\pm$ 1.0 (3.3 ~ 8.6)	69 (100%)	5.9 $\pm$ 1.2 (4.1 ~ 13.1)	5.5 $\pm$ 1.1* (3.1 ~ 8.8)

\*p < 0.05 : 変更前対変更後 (paired t検定)

## 【結語】

○治療開始前の血清尿酸値の程度によるが、ドチヌラドは1mg以内の投与量で多くの痛風・高尿酸血症患者の治療目標値を達成できる。

○ドチヌラドはベンズブロマロンより尿酸低下作用は幾分強力であり、その作用は腎機能低下例においてより強力であると考えられた。